

2020年3月期 決算説明会



株式会社 **アルス物流**

(東証二部：9055)

2020年5月11日

代表取締役社長 白居 賢

第Ⅰ部：2020年3月期 決算概要

第Ⅱ部：2021年3月期 見通し

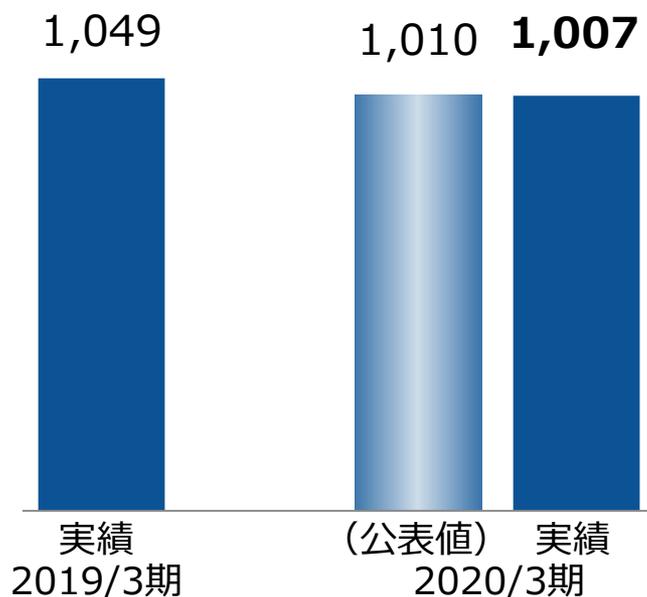
第Ⅲ部：今後の取り組み

1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）

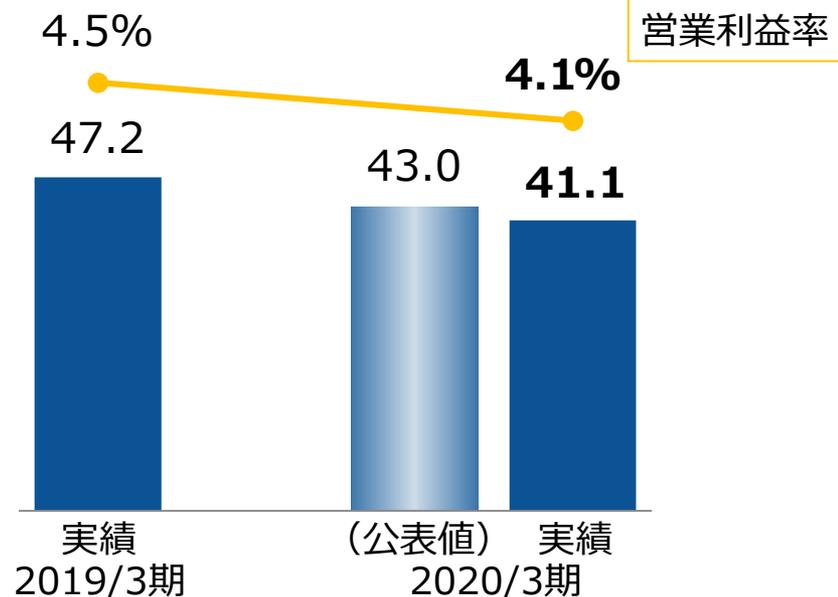


(単位:百万円)	2019/3期 実績	2020/3期		
		実績	増減率 (対前期)	公表値
売上高	104,919	100,741	△4.0%	101,000
営業利益	4,722	4,118	△12.8%	4,300
経常利益	4,830	3,886	△19.5%	4,300
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,499	2,389	△4.4%	2,500

■ 売上高 (単位:億円)

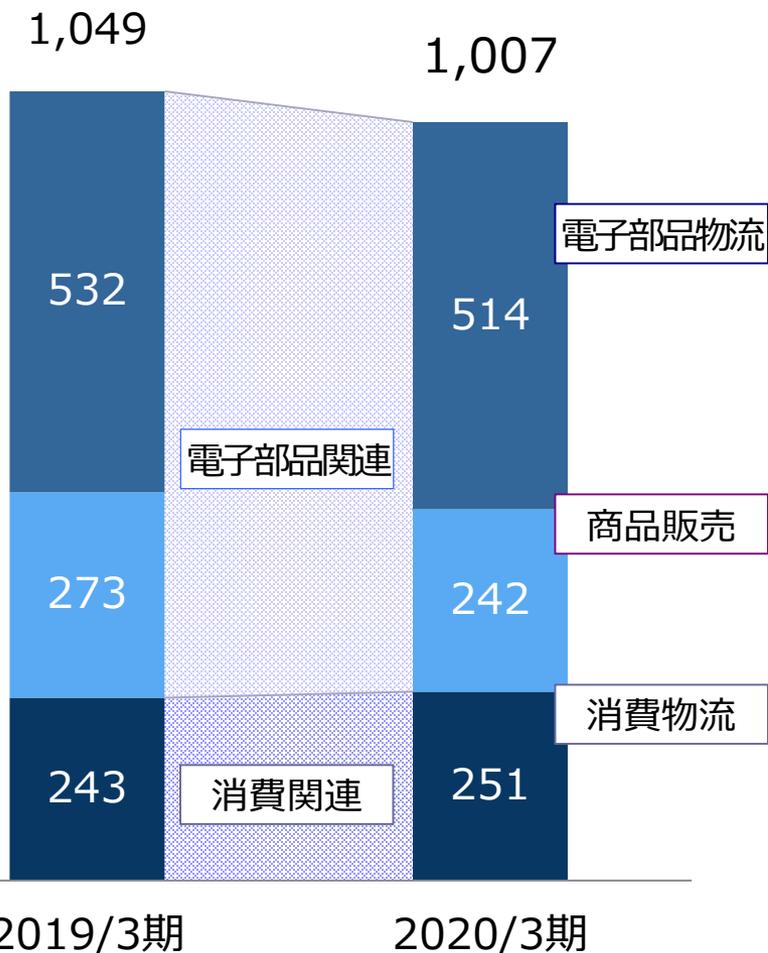


■ 営業利益 (単位:億円)



■ セグメント別売上高

(単位：億円)



前期比 Δ **41.7億円** (Δ **4.0%**)

■ 電子部品物流 Δ 18 億円
電子部品業界の市況悪化による荷動き減、及び新型コロナウイルスの影響による減

■ 商品販売 Δ 31 億円
中国や北米におけるスマートフォン、車載関連向けの需要減や現地調達化により減

■ 消費物流 + 8 億円
化粧品関係の商品センター業務の拡販及び生協宅配需要増により増

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

■ セグメント別営業利益

(単位：億円)

4.5%

4.1%

営業利益率

47.2

41.1

33.5

電子部品関連

26.9

電子部品物流

7.2

商品販売

△ 1.3 億円

売上減及び為替影響による仕入原価率の悪化により利益減

6.4

消費関連

8.3

消費物流

消費物流

+ 1.8 億円

人手不足対策に伴う労務関連費用が増加したが、売上増により利益増

2019/3期

2020/3期

前期比 △6.0 億円 (△12.8%)

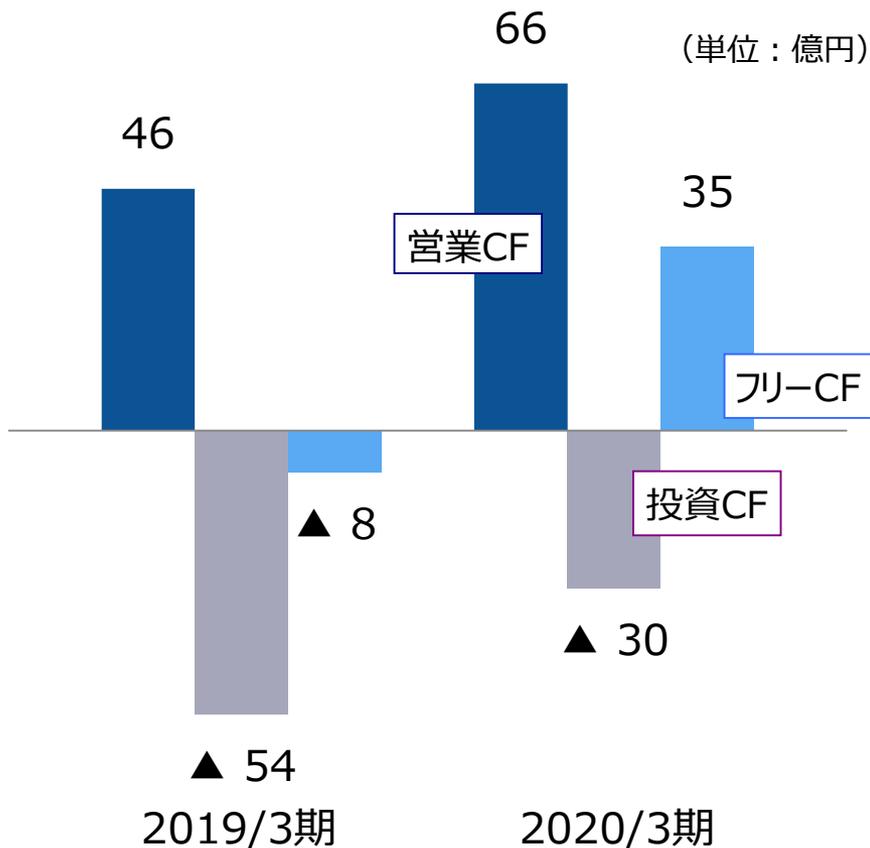
■ 電子部品物流

△ 6.5 億円

自動化など生産性向上に取り組むも、売上減や国内での固定費増等により利益減

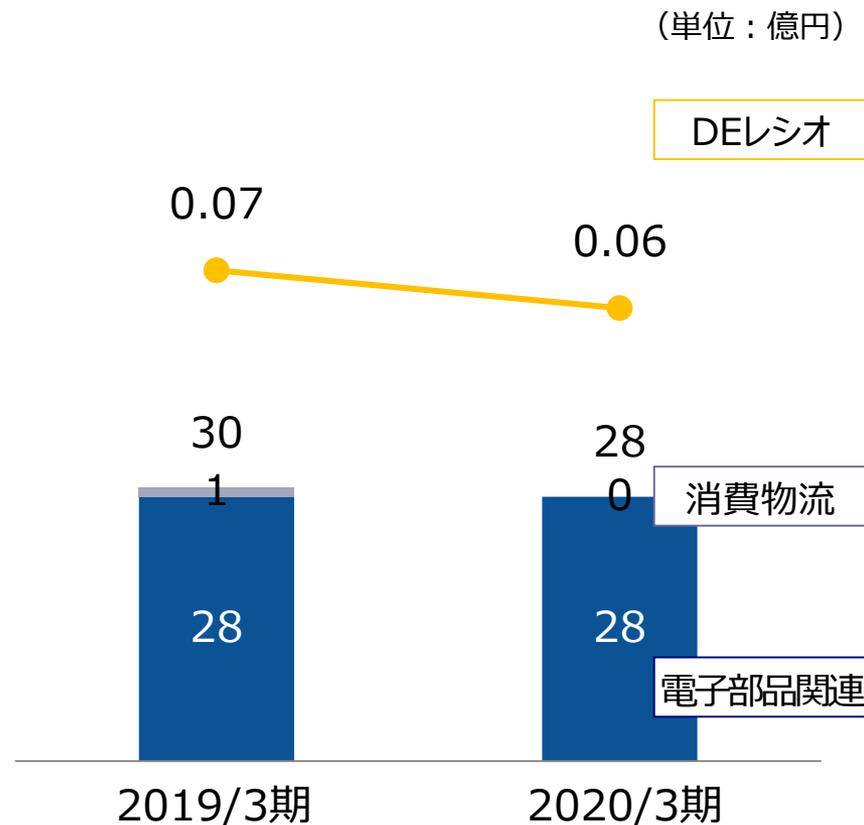
※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

■ キャッシュフロー



営業CF: 減価償却費増、仕入支払減による増
 投資CF: 中国での中古倉庫取得支出など

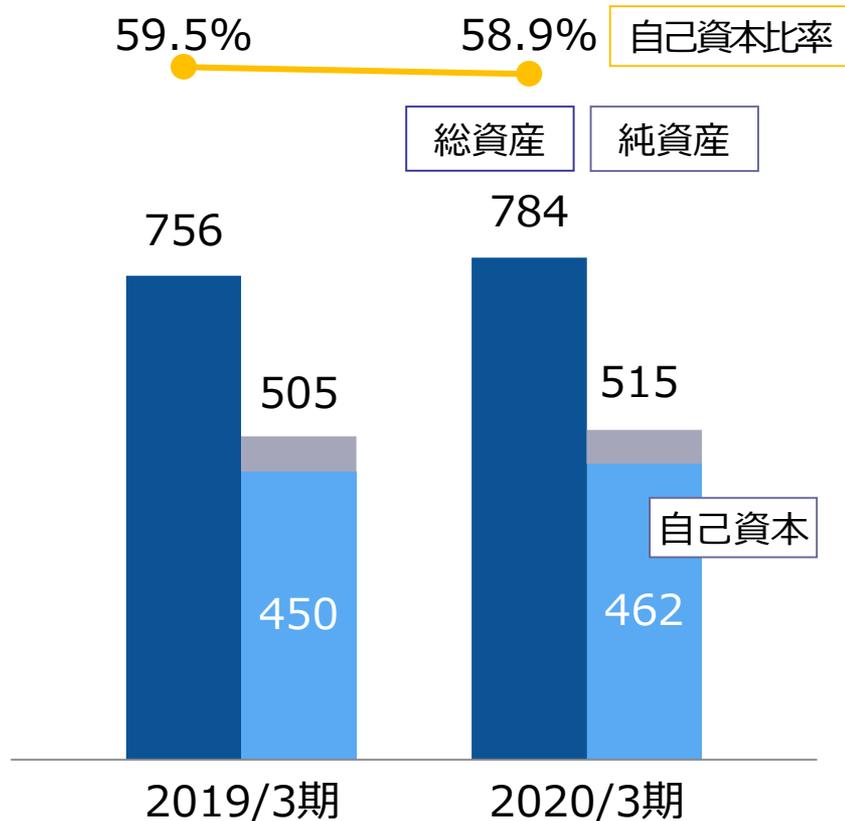
■ 有利子負債残高



借入金：消費物流で削減し減
 DELレシオ：自己資本増により若干改善

■ 資産状況

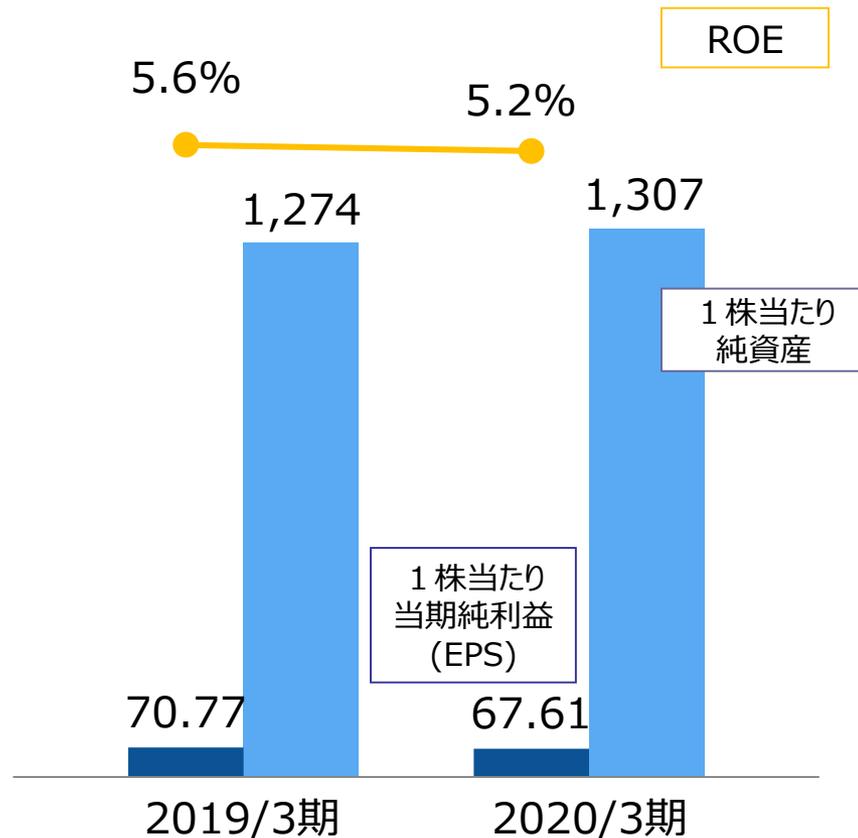
(単位：億円)



総資産：固定資産取得、リース資産計上で増
 純資産：親会社株主に帰属する当期純利益確保により増

■ 1株当たり指標

(単位：円)



EPS△3.16円：親会社株主に帰属する当期純利益の減による
 ROE△0.4p：利益減と自己資本増により低下

第Ⅰ部：2020年3月期 決算概要

第Ⅱ部：2021年3月期 見通し

第Ⅲ部：今後の取り組み

1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）

(単位:百万円)	2020/3期		2021/3期		
	実績	利益率	見通し	利益率	増減率
売上高	100,741	-			
営業利益	4,118	4.1 %			
経常利益	3,886	3.9 %			
親会社株主に帰属する当期純利益	2,389	2.4 %			

新型コロナウイルスの影響により、現時点で合理的な見積もりが困難なため、可能となった時点で開示。

電子部品物流

■ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が、顧客工場の稼働率や当社取扱貨物量に与える影響を精査中。下期に向けた営業活動も制限されるなか、現時点で合理的な見積もりが困難であるため、開示が可能となった時点でご報告。

■ 長期的には、自動車の電子化、5G、IoTの進展等による電子部品物流需要増に期待。

消費物流

■ 足元は宅配需要増。新型コロナウイルス収束後の見込みは見通し難い。

第Ⅰ部：2020年3月期 決算概要

第Ⅱ部：2021年3月期 見通し

第Ⅲ部：今後の取り組み

1. 電子部品関連
2. 消費物流（「流通サービス」）

1. 電子部品関連



進化する「最適物流」をより多くのお客様に

「地域と市場・顧客の2軸で成長」「企業クオリティの向上」

GTB (Business)

市場と商品の拡大

- ① HUB拠点の機能拡充とネットワークの強化
- ② 車載・産機市場向け事業の加速
- ③ サービスメニューの充実と提案力の強化

GTP (Profit)

間・直の生産性向上

- ① IT・自働化の進化と導入拡大
- ② 資本効率重視と確実な刈り取り
- ③ 改善活動のレベルアップ

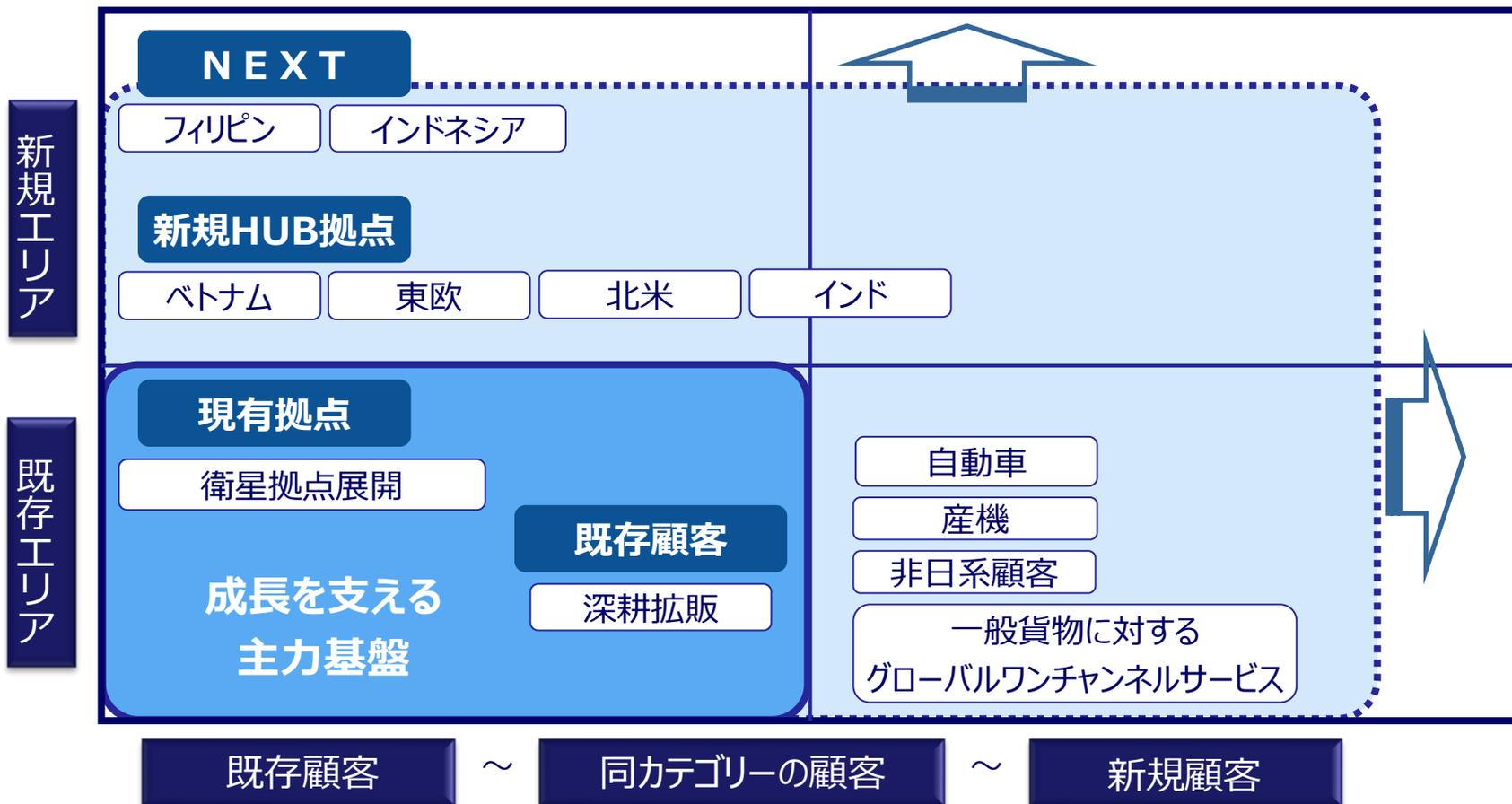
GTC (Confidence)

選ばれる会社

- ① 人財強化と従業員の負荷軽減
- ② 品質第一で顧客満足の実現
- ③ ESG視点での体制構築と取り組みの向上

地域と市場・顧客の2つ軸でGTB伸長

- HUB拠点の整備と、ネットワークの充実
- 自動車・産機に加え、輸出入中心に一般貨物へチャレンジ



【国内】

①

新規自働倉庫・機器の立上げと安定化
～大型自働化設備の導入と内部開発促進～

②

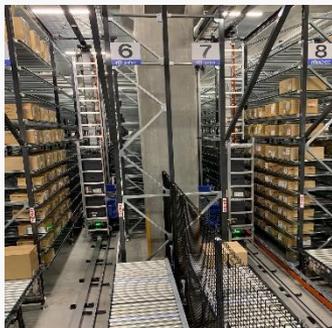
東名阪等主要拠点の増強計画の進捗
～土地収用等含め、計画の挽回・加速～

③

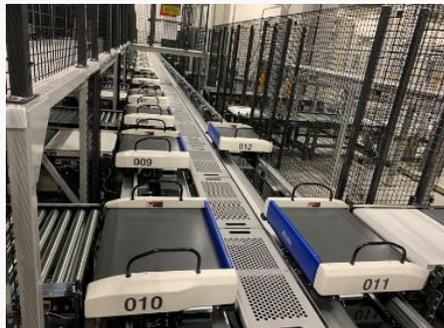
WMS・輸出入等のシステム強化
～機能増強と大幅な効率向上～

アルプス物流初のカートン自動倉庫の立上げ（西宮倉庫）

自動倉庫棚



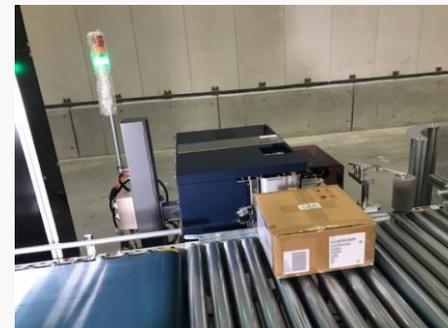
ソーター（自動仕分け）



オートスキャナー



オートラベラー



2020年3月より稼働開始、生産性向上を図る

【欧米】

①

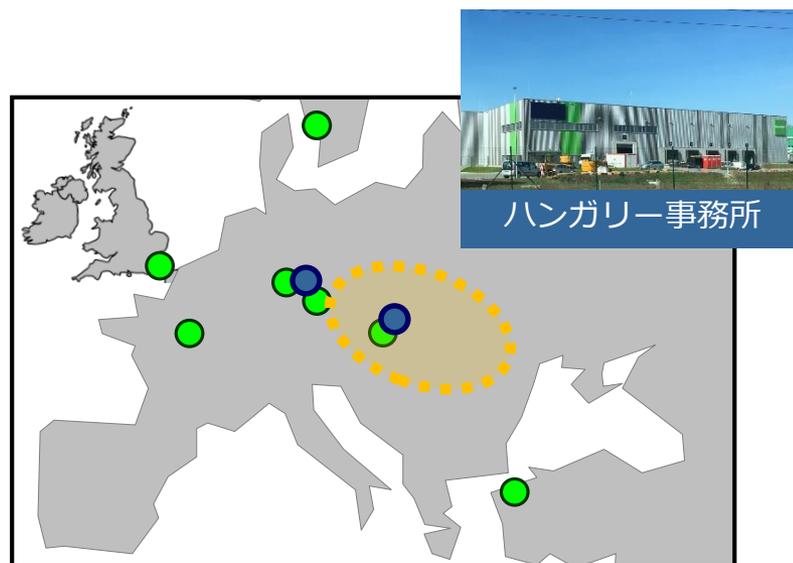
米国・南東部への車載部品ネットワーク強化
～アトランタ、ハンツビル等、フレキシブルに展開～

②

米国/メキシコ間の輸送能力強化
～中央高原地区、モンレー等への新規展開検討～

③

東欧へのネットワークの拡大
～ハンガリーに続き、チェコ・ルーマニア等への展開促進～



【中華圏】

①

国内輸送ネットワークの強化
～輸入－国内配送の一貫体制の充実～

②

自動車産業向けサービスの拡大
～高品質＋JIT/VMI等の付加価値サービスの提供～

③

通関・サービス体制の強化
～専門会社の立上げと高級認証の獲得～

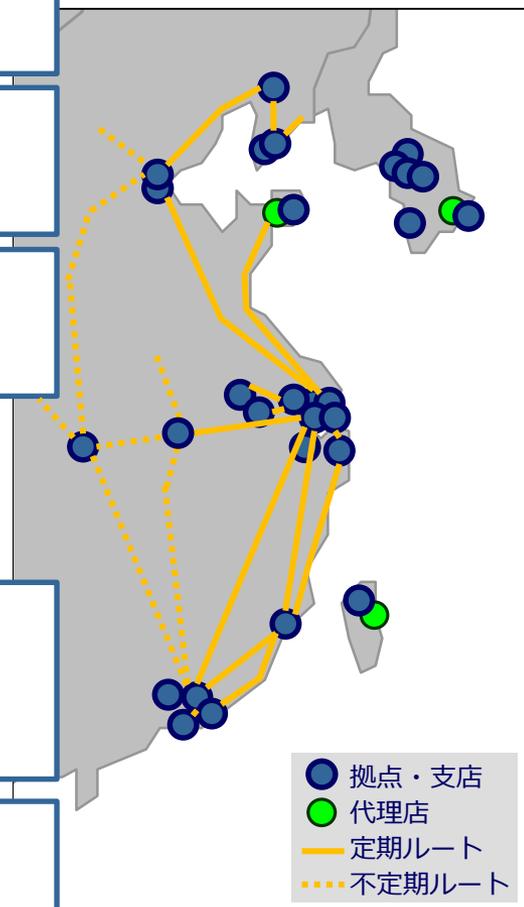
【韓国】

①

半導体関連ビジネスの拡大
～5G関連ビジネス立上げに向け、
顧客ニーズに細やかに対応～

②

非日系ビジネスの取組み
～電子部品メーカー、商社の
グローバルSCM体制サポート～



【アセアン・インド】

①

各国拠点の機能強化（フルファンクション化）
～輸出入事業の自営化、システム整備など～

②

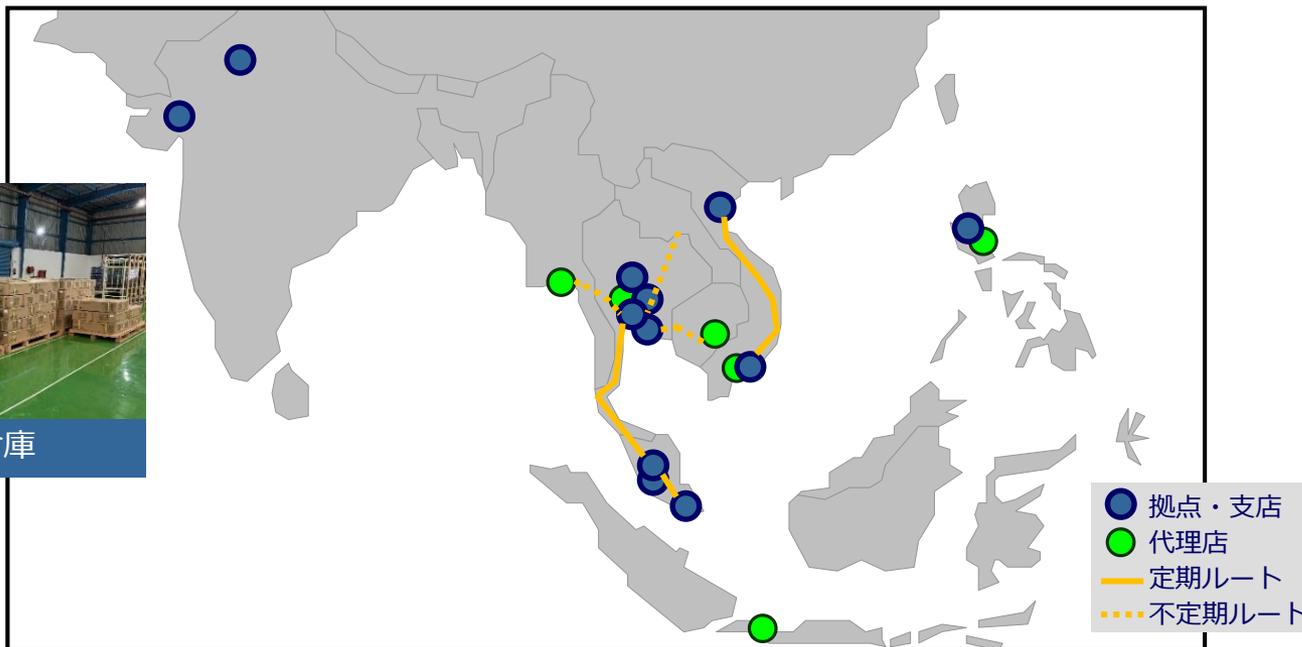
アセアン内クロスボーダー輸送の拡大
～シンガポールータイ、ベトナムのネットワーク整備～

③

インド事業の安定化とインド内ネットワーク
～インド現地法人2社の安定化と新設拠点の検討～



インド倉庫

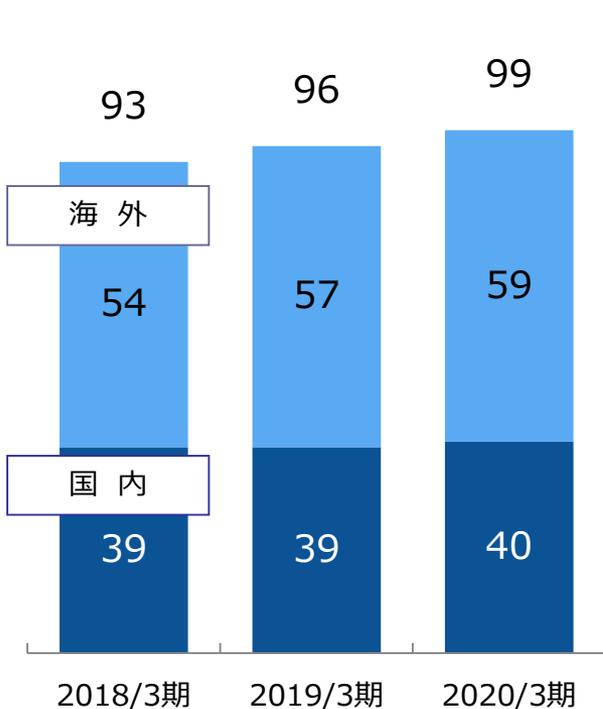




物流インフラ拡充の状況

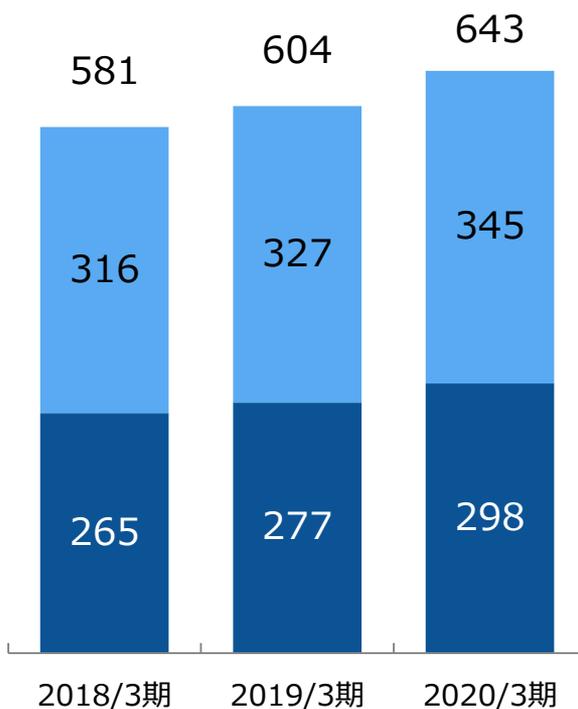
■ 拠点数

(単位：箇所)



■ 倉庫面積

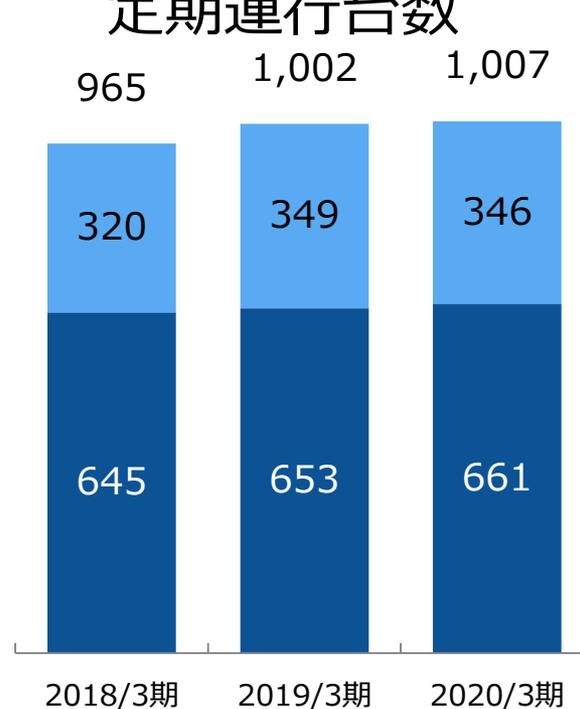
(単位：千㎡)



■ トラック

(単位：台)

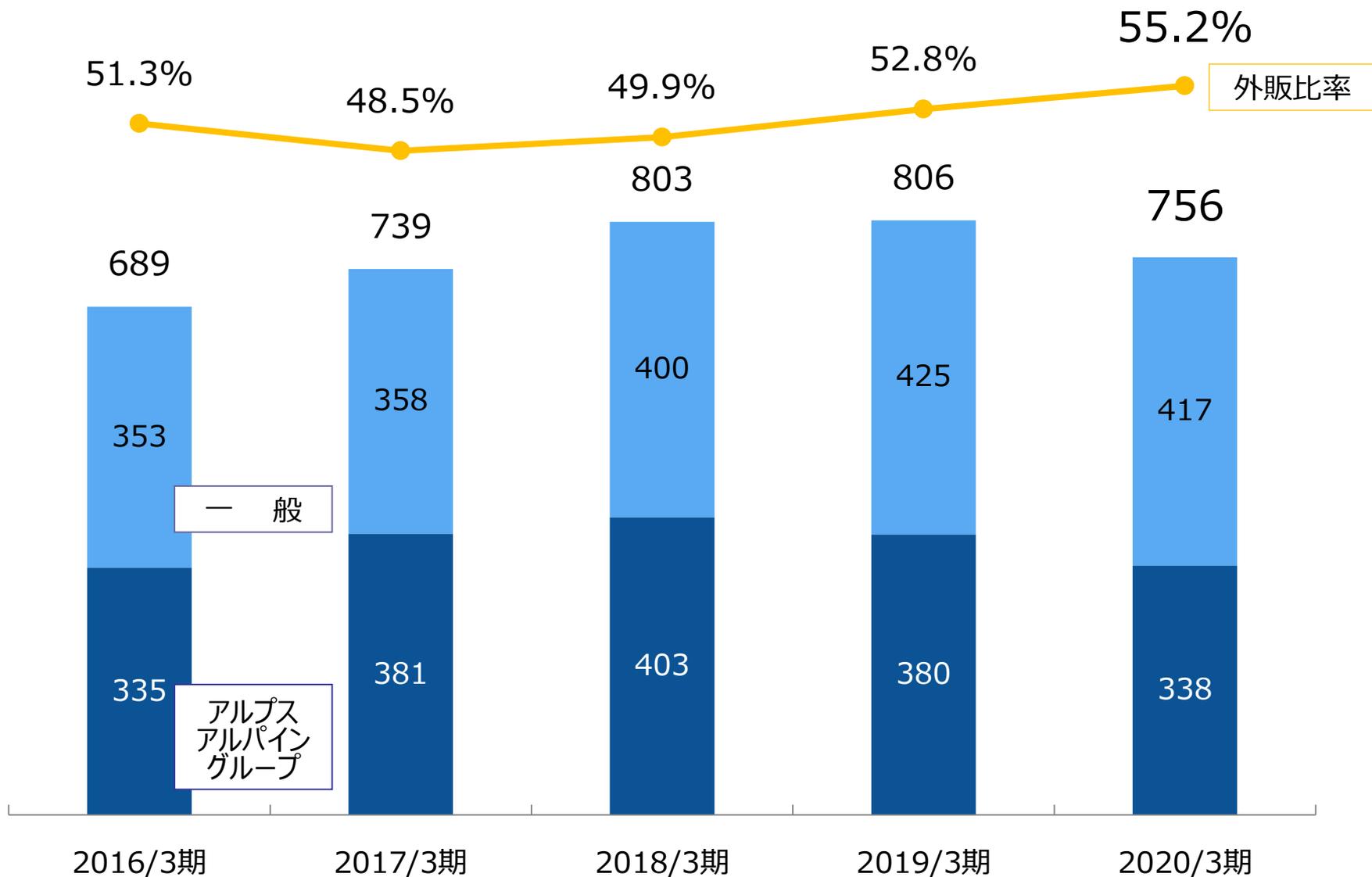
定期運行台数





外販比率

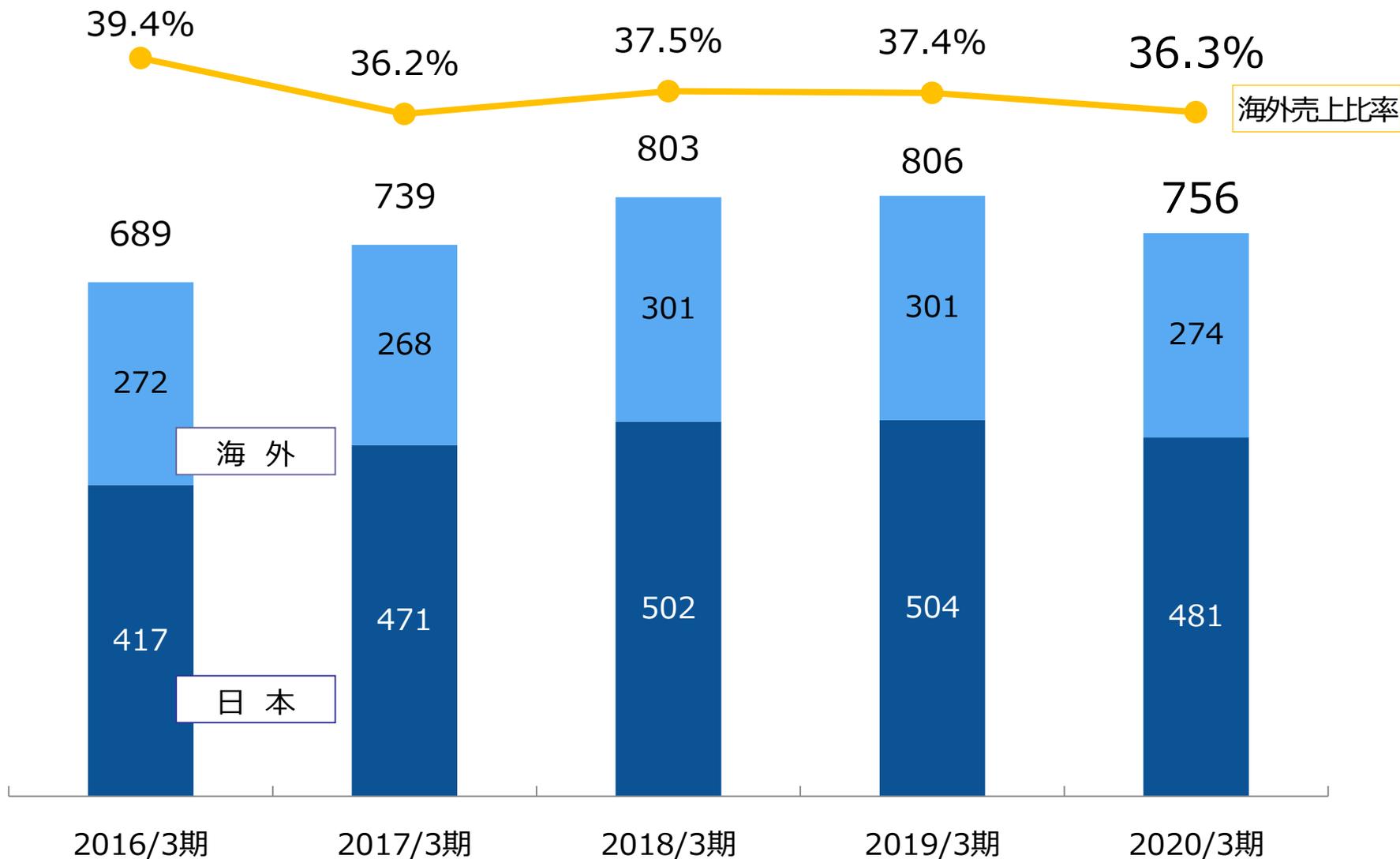
(単位：億円)





海外売上比率

(単位：億円)



2. 消費物流 (流通サービス)





GTB (Business) 持続的成長

- ① BtoB 川上物流の拡大
- ② 医薬品物流へ挑戦
- ③ 生協物流の展開
- ④ 新ビジネスの創出

GTP (Profit) 収益性改善

- ① 物流価値を高め収益向上
- ② 直接部門はPDCA+で収益改善
- ③ 間接部門は業務改革による利益貢献
- ④ 戦略的投資の実行と検証

GTC (Confidence) 現場力強化

- ① 「流通サービスで働きたい」を一緒につくる
- ② 品質を高め顧客の信頼を獲得
- ③ 信頼し任せることで互いの成長
- ④ 社会の信頼を得て「企業価値」の向上

事業領域拡大で更なる成長

既存領域

拡大領域

■ BtoB物流

物流センターと幹線ネットワークを活かし、B to B（輸送）新規拡大



■ BtoC物流

省人化マテハン導入による次世代物流を構築、B to C（物流）獲得強化



■ メディカル物流

高品質な物流サービス提供による、高付加価値分野（物流+輸送）拡大



■ 生協物流

既存領域を継続しながら、新サービス（パートナー会社協業による軽貨物配送他）へチャレンジ





収益性改善

- 人時生産性向上
- 個々に合わせた教育により現場のスキルアップ
- 省人化マテハンによる物流価値提供

現場力の強化

- 働き手に合った業務・処遇再構築
- 人員計画と施策の見直し、採用効率を高める
- CR活動強化により企業価値向上

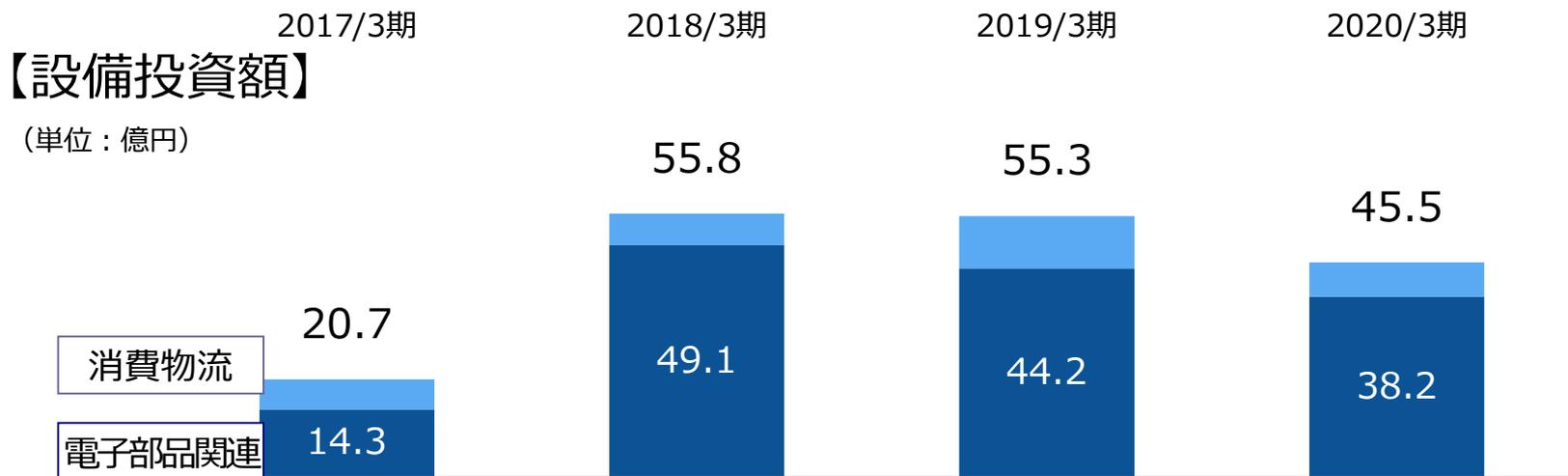
※CR : Corporate Relations 企業としての社内外との良好な『つながり』

戦略的投資

- 省人化次世代マテハンの導入
- 西日本エリアの倉庫再編
- 計画的な車両の配備
- 低公害・低燃費車の導入(EV車の検討)

	2019/3期	2020/3期
■ 拠点数	115	116ヶ所
■ 倉庫面積	218	222千㎡
■ トラック台数	2,387	2,408台

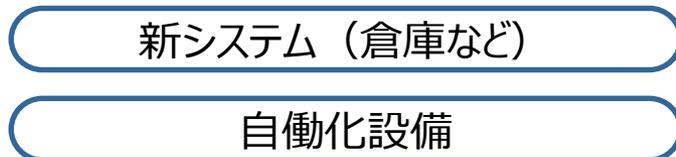
「戦略投資拡大」 ⇒ 「拠点整備」 + 「生産性向上」



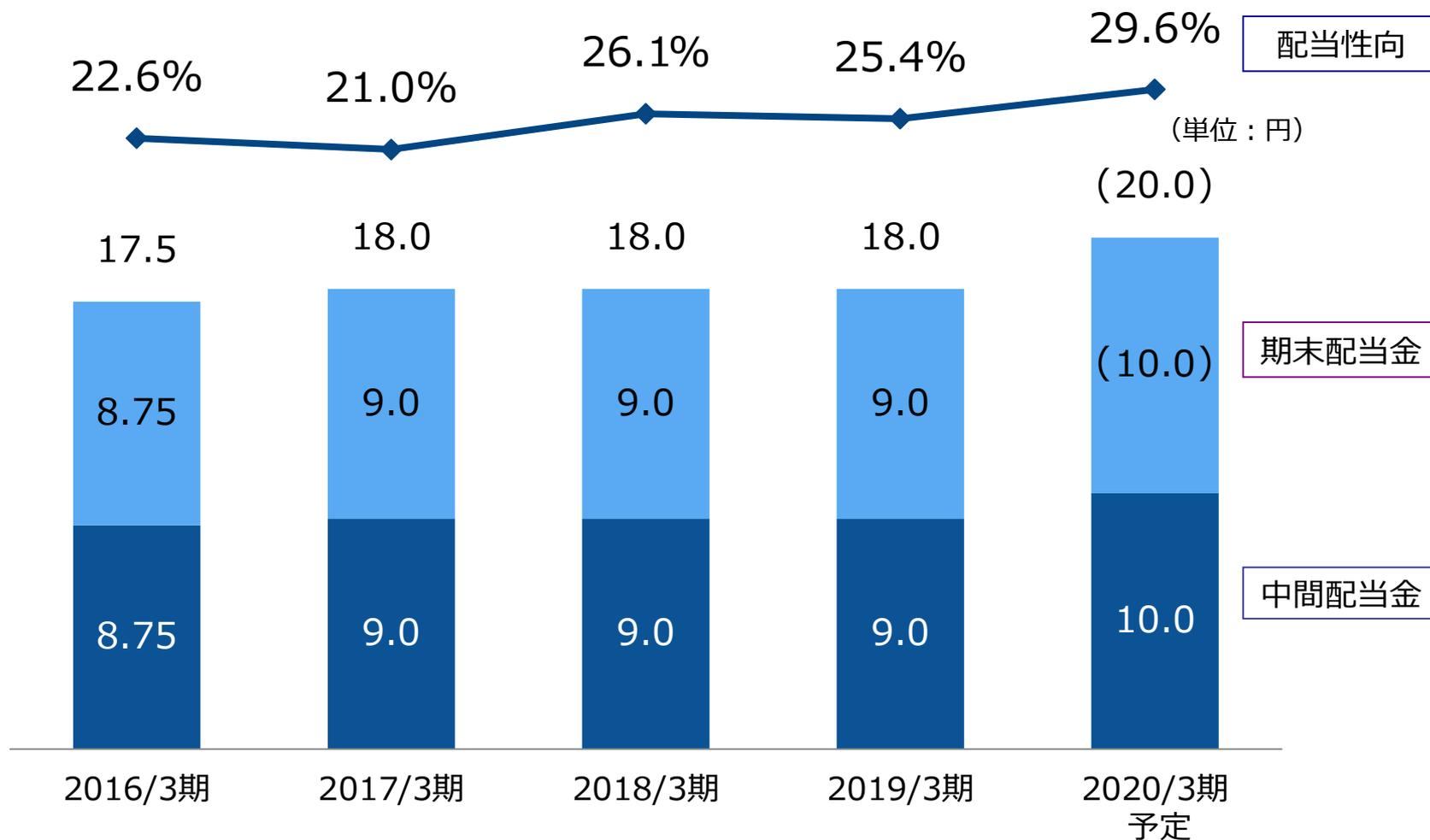
【拠点整備】



【生産性向上】



- ・ 安定的に増配を目指す（配当性向25～30%）、4次中期では内部留保は投資へ。
- ・ 2021/3期は、現時点未定。



※当社は2016年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
 上記グラフの1株当たり配当金は、分割前の2016/3期につきましても分割後の株数に調整して表示しております。

ご清聴ありがとうございました
今後ともご支援を賜りますよう
宜しくお願い申し上げます

ご注意：

本資料に記載された業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確実な要素を含んでいます。

実際の業績等は、業況の変化等により、記載されている予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は会計監査対象外となっています。